

Ⅲ 土 壤 図

土 壤 概 説

1 山地及び丘陵地の土壌（林地土壌）

「乃美」図幅は広島県のほぼ中央部に位置し、300～600 mの定高性をもった平坦地が広く分布している。この平坦地には、赤色土化作用により生成された古い土壌が侵食を受けずに広く分布しており、この図幅の大きな特徴となっている。一方、この地域は、広島県南部の未熟土地帯から広島県北部の褐色森林土地帯への移行帯にあたることから、多種多様な土壌が出現し、これが更に前述した地形との関連において、赤褐系、黄褐系等の土色を持ち、かなり複雑な分布形態を呈している。

調査の結果、この図幅に出現した土壌は、母材、堆積様式、断面形態、土色等の相違により、表-12に示すとおり、13土壌統群、37土壌統に分類した。

表-12 山地・丘陵地の土壌分類表

土壌群	土壌亜群	土壌統群	土壌統	記号	地質、母材
		岩石地	槌山統	Tuc	
未熟土	残積性 未熟土	粗粒残積性 未熟土壌	呉娑々字1統	Gsa-1	花崗岩
			呉娑々字2統	Gsa-2	〃
	残積性 未熟土	栗谷1統	Kri-1	〃	
			志和統	Swa	流紋岩
黒ボク土	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	大屋統	Oya	火山灰
		黒ボク土壌	七塚原統	Nan	〃
		乾性褐色 森林土壌	高城1統	Tak-1	花崗岩
			鳴瀬山1統	Nar-1	〃
			川北1統	Kwa-1	流紋岩
			木ノ宗1統	Kin-1	古生層 輝緑凝灰岩
			石内1統	Isi-1	花崗岩
				原山1統	Har-1

褐色 森林土	乾性褐色 森林土 (黄褐色)	光明山 1 統	Kmy - 1	流紋岩	
		撫臼山 1 統	Nad - 1	〃	
		桧村 1 統	Hin - 1	安山岩	
		敷地 1 統	Sik - 1	第 3 紀層 第 4 紀層	
		乾性褐色 森林土 (赤褐色)	世羅 1 統	Ser - 1	花崗岩
			双三 1 統	Fut - 1	流紋岩
			小国 1 統	Ogu - 1	安山岩
			豊栄 1 統	Toy - 1	古生層 輝緑凝灰岩
	褐色 森林土	褐色森林土 (黄褐色)	高城 2 統	Tak - 2	花崗岩
			鳴瀬山 3 統	Nar - 3	〃
			川北 2 統	Kwa - 2	流紋岩
			横山 統	Yok	玄武岩
			木ノ宗 2 統	Kin - 2	古生層 輝緑凝灰岩
		褐色森林土 (赤褐色)	石内 2 統	Isi - 2	花崗岩
			原山 2 統	Har - 2	流紋岩
			光明山 3 統	Kmy - 3	〃
			撫臼山 3 統	Nad - 3	〃
			桧村 3 統	Hin - 3	安山岩
褐色森林土 (赤褐色)	世羅 2 統	Ser - 2	花崗岩		
	双三 2 統	Fut - 2	流紋岩		
	小国 2 統	Ogu - 2	安山岩		
	豊栄 2 統	Toy - 2	古生層 輝緑凝灰岩		
赤黄色土	赤色土	赤色土壌	岡田山 統	Oka	
グライ土	グライ土	グライ土壌	上井田 統	Kam	

2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

この図幅内は、広島県の農業地域区分では中部台地地域に属している。その名のとおり、図幅内の農地土壌は台地土壌の占める割合が高く、土壌の種類も多く、その分布状況も複雑である。台地土壌の多くは、流紋岩その他の母材に由来する強粘質土壌からなっている。とくに、畑地においては、造成地が多く、未熟な強粘質土壌は今後の適切な土壌管理を必要とする。一方、低地地域の農地は、美波羅川、徳良川、椋梨川、沼田川、芦田川など多くの河川により開析された地形に集中しているが、これらの河川は、いずれも上流部に相当し、河川幅が狭く、沖積作用が弱い。このため、沖積土壌といえども、周囲の母材の性質が強く残っている。また、これらの河川沖積にはきわめて多くの樹枝状谷間が発達し、これらは地下水位が高く、湿田が多い。

農地土壌は表-13のとおり、9土壌群、30土壌統群、56土壌統に分類した。

表-13 台地、低地地域の土壌分類

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統
褐色森林土	細粒褐色森林土壌	貝原統 上統
	細粒褐色森林土壌(造成相) 中粗粒褐色森林土壌()	
灰色台地土	細粒灰色台地土壌	小向統 喜久田統 早稲原統
	中粗粒灰色台地土壌	長笹統
グライ台地土	細粒グライ台地土壌	吉井統 橋本統
赤色土	細粒赤色土壌(造成相)	
黄色土	細粒黄色土壌(残積性)	赤山統 鶴木山統
	(洪積世堆積)	矢田統
	細粒黄色土壌(造成相) 細粒黄色土壌(斑紋あり)	蓼沼統 北多久統

	中粗粒黄色土壤(斑紋あり)	江部乙統
	礫質黄色土壤(")	新野統
褐色低地土	細粒褐色低地土壤(")	都志見統
		水見統
		屋形統
		常万統
	中粗粒褐色低地土壤(")	江刺統
		荻野統
	礫質褐色低地土壤(")	三河内統
灰色低地土	細粒灰色低地土壤	大沢統
	灰色系 (")	
		四倉統
		藤代統
		鴨島統
		宝田統
	"	
	灰褐色系 (")	緒方統
		金田統
		多多良統
	中粗粒灰色低地土壤	
	灰色系 (")	加茂統
		清武統
		豊中統
	"	
	灰褐色系 (")	安来統
	礫質灰色低地土壤	
	灰色系 (")	追子野木統
	"	
	灰褐色系	
	灰色低地土壤, 下層黒ボク	松本統
		柏山統
		野市統
	灰色低地土壤, 下層有機質	高崎統
		泉崎統

グ ラ イ 土	細 粒 強 グ ラ イ 土 壤	田 川 統
		西 山 統
		東 浦 統
	中 粗 粒 強 グ ラ イ 土 壤	芝 井 統
	細 粒 グ ラ イ 土 壤	保 倉 統
		幡 野 統
		千 年 統
		三 隅 下 統
	中 粗 粒 グ ラ イ 土 壤	新 山 統
	グ ラ イ 土 壤, 下 層 黒 ボ ク	高 畑 統
	グ ラ イ 土 壤, 下 層 有 機 質	檜 山 統
泥 炭 土		長 富 統

土 壤 細 説

1 山地、丘陵地の土壌

(1) 岩石地

槌山統 (Tuc)

露岩が地域の50%以上を占める山地の部分である。主として、図幅南部の花崗岩地帯において、南向きの急斜面に、ごく小面積分布する。経済的利用はできず、現植生を極力、保護する必要がある。

(2) 残積性未熟土

ア 粗粒残積性未熟土壌

呉娑々宇 1 統 (Gsa - 1)

花崗岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する未熟土である。主として、大和町和木付近の南斜面に出現する。強度の表面侵食を受けているため、土層が浅く、層位も発達していない。A₀層の欠如も目立つ。ところによっては、上部にM層(菌糸網層)が現われることもある。アカマツが生育しているが、生長は悪く、せき悪林化している。

呉娑々宇 2 統 (Gsa - 2)

呉娑々宇 1 統の谷間に出現する崩積性の未熟土である。斜面上方からの侵食によって、花崗岩の土砂が崩落し、それが堆積したものであるため、土層は深く、軟らかい。土壌構造や層位は発達しないのが普通であるが、ところによっては、上部に腐植の浸透した薄いA層が認められ、いわゆるA-C型の断面形態を呈することもある。水分条件が良好であるため、アカマツの生長は良好なことが多い。

イ 残積性未熟土壌

栗谷 1 統 (Kri - 1)

花崗岩を基岩とした地域において、呉娑々宇統、高城統などに連なる山麓緩斜面に分布する未熟土である。一般に土壌構造や層位は発達しないが、ところによってはA-C型の断面形態を呈することもある。土性は壤土～砂質壤土である。アカマツが生育しているが、その生長は良好な部類に入る。

志和統 (Swa)

流紋岩を基岩とした地域において、川北統に連なる山麓緩斜面に分布する未熟土である。土壌構造や層位はともに発達しないのが普通である。

土性は埴質で、礫を混入することが多い。アカマツが生育しているが、生長状況は良好である。

(3) 黒ボク土

ア 厚層黒ボク土壌

大屋統 (Oya)

山地の谷頭や丘陵地の凹地に、ごく小面積点在する二次堆積性の黒ボク土で、黒色土層が50cm以上のものである。腐植に富む厚いA層を有し、下層へ明変する。表層上部は退色していることもある。土性は埴土～微砂質埴土である。二次堆積性であるため、礫を混入することも多い。ところによっては、下層に浮石土層(キビ土)を伴うこともある。アカマツが生育しているが、その生長は良好である。部分的には、スギ、ヒノキの造林も可能である。

イ 黒ボク土壌

七塚原統 (Nan)

山地や丘陵地の緩斜面において、各所に小面積で点在する黒ボク土で、黒色土層が50cm未満のものである。黒ボク土が埋没していることもあるが、この統に一括した。A層から下層へは明変する。また、大屋統同様、下層に浮石土層を伴うこともある。アカマツの生長は良好である。

(4) 乾性褐色森林土

ア 乾性褐色森林土壌

高城1統 (Tak-1)

花崗岩を基岩とした地域において、開析の進んだ山地の尾根から中腹にかけて、広く分布する乾性の褐色森林土である。主に図幅南部の福富町、河内町、大和町の一部に出現する。細粒状構造をもつ薄いA層を有するが、下層への腐植の浸透は少ない。礫を含む。アカマツが生育するが、生長は一般に不良である。

鳴瀬山1統 (Nar-1)

花崗岩を基岩とした地域において、開析の進行した山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土である。図幅北部の三和町、甲田町の一部に出現する。A層には細粒状構造が発達し、層位も発達している。高城1統とよく似た性状を示すが、土層が高城1統よりもやや浅い傾向がある。アカマツが生育するが、その生長は不良である。

川北 1 統 (Kwa - 1)

流紋岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて広く分布する乾性の褐色森林土である。開析の進行している大土山一帯では、尾根部に狭い範囲で出現する。層位は発達するが、A層は浅く、下層への腐植の浸透は少ない。下層は堅密である。土性は埴壤土。アカマツが生育するが、その生長は普通である。

木ノ宗 1 統 (Kin - 1)

古生層粘板岩、輝緑凝灰岩を基岩とした地域において、開析の進んでいる山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土である。一般に、細粒状構造をもつ薄いA層を有するが、ところによってはこれを欠くこともある。腐植の下層への浸透は悪い。やや埴質な土壌で、下層は堅密である。角礫を含む。アカマツが生育し、その生長は普通である。ヒノキの生長は期待できない。

イ 乾性褐色森林土壌 (黄褐色)

石内 1 統 (Isi - 1)

花崗岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色 (10 Y R) の色調を呈するものである。図幅南部の未熟土地帯から褐色森林土地帯への移行帯に出現する。薄いA層を有するが、下層への腐植の浸透はほとんどなく、土壌構造も発達していない。全般的に砂質の土壌で、下層には風化礫を伴うことも多く、未熟性の強い土壌である。アカマツが生育するが生長は悪い。

原山 1 統 (Har - 1)

流紋岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色 (10 Y R) の色調を呈するものである。図幅南西部の高屋町の一部に出現する。細粒状構造を持つ薄いA層を有するが、腐植の下層への浸透は悪い。土層は浅い。アカマツが生育する程度である。

光明山 1 統 (Kmy - 1)

流紋岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色 (10 Y R) の色調を呈するものである。図幅北部の甲田町及び三和町の一部に出現する。一般にA層は薄く、腐植の下層への浸透は不良なことが多い。比較的埴質で、下層は堅密である。部分的には侵食のため、表層が失なわれているところもあ

る。アカマツ林となっているが、生長は劣る。

なお、この図幅の北部に接する「三次」図幅では、この土壌統記号を「Kom-1」としているが、農地土壌に使用される統記号と重複するため、以降は「Kmy-1」と改めることにする。

撫臼山1統 (Nad-1)

流紋岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)の色調を呈するものである。ところによっては、下層に赤味を帯びることもある。図幅北東部の吉舎町の一部に出現する。薄いA層を有するが、腐植の下層への浸透は不良である。やや埴質で堅密な土壌である。アカマツやコナラを主とする二次林となっているが、アカマツの生長はやや劣る。光明山1統とよく似た性状を示す。

桧村1統 (Hin-1)

安山岩を基岩とした地域において、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)の色調を呈するものである。図幅北東部の馬洗川沿いのやや急斜面に小面積出現する。層位はほぼ分化しているものの、土色が全般に淡色で、未熟土の傾向が見られる。埴質、堅密である。アカマツ林となっているが、その生長は悪い。

敷地1統 (Sik-1)

第3紀及び第4紀堆積物を母材とし、丘陵地に分布する乾性の褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)の色調を呈するものである。やや埴質な土壌で、円礫を含む。局部的には、地下水の影響によるグライ層を伴うところや、赤色風化の影響の程度により、赤味の強いところ、黄味の強いところなど、多様であるが、いずれもごく小面積であるため、土壌図には表わさなかった。アカマツ林となっているが、一般的にその生長は劣る。

なお、土壌統記号について、北部に接する「三次」図幅では「Shi-1」としているが、これも農地土壌統と重複するため、「Sik-1」と改めた。

ウ 乾性褐色森林土壌(赤褐系)

世羅1統 (Ser-1)

花崗岩を基岩とした地域において、標高300~600mの開析の進行していない丘陵地に広く分布する乾性の褐色森林土である。赤色土化作用の影響を強く受けており、土色は赤褐色(5YR)の色調を呈する。こ

の図幅の代表的な土壌の一つである。通常，細粒状構造の発達した薄い A 層を有するが，ところによってはこれを欠くこともある。土性は砂壤土～壤土である。下層は堅密である。アカマツが生育するが，その生長はやや劣る。

双三 1 統 (Fut - 1)

流紋岩を基岩とした地域において，標高 300～600 m の開析の進行していない丘陵地に広く分布する乾性の褐色森林土である。この土壌も赤色土化作用の影響を強く受けており，土色が赤褐色 (5 Y R) を呈する。やや埴質で，下層は堅密である。アカマツが生育するが，生長はやや劣る。世羅 1 統とともに，この図幅の代表的な土壌である。

小国 1 統 (Ogu - 1)

安山岩を基岩とした地域において，標高 300～600 m の開析の進行していない丘陵地に広く分布する乾性の褐色森林土で，土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。層位はかなり発達している。土層は全般に浅いが，埴質な土壌で角礫を含み，下層への腐植の浸透もやや良好である。大部分，アカマツ林であるが，その生長は良好な部類に入る。

豊栄 1 統 (Toy - 1)

古生層粘板岩，輝緑凝灰岩を基岩とした地域において，標高 300～600 m の開析の進行していない丘陵地に分布する乾性の褐色森林土である。赤色土化作用の影響を受けており，土色が赤褐色 (10 Y R) の色調を呈するものである。やや埴質であるが，角礫に富み，腐植の下層への浸透もやや良好である。アカマツ林となっているが，その生長は良好である。

(5) 褐色森林土

ア 褐色森林土壌

高城 2 統 (Tak - 2)

花崗岩を基岩とした地域で，高城 1 統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土である。主に図幅南部の福富町，河内町，大和町等に出現する。粒状～団粒状構造の発達した A 層を伴う。腐植の下層への浸透は良好であるが，ところによっては，あまり進んでいないこともある。やや埴質な土壌で，礫を含む。アカマツ林となっていることが多いが，その生長は良好で，ヒノキの造林も可能である。

鳴瀬山 3 統 (Nar - 3)

花崗岩を基岩とした地域で，鳴瀬山 1 統と同一地域の谷部に分布する

適潤性の褐色森林土である。主に、図幅北部の甲田町、三和町にごく小面積出現する。土層は深く、石礫に富み、腐植の下層への浸透も良好である。全般に高城2統とよく似た性状を示す。スギ、ヒノキの造林が可能である。

川北2統 (Kwa-2)

流紋岩を基岩とし、川北1統に連なる山地の中腹から谷部にかけて広く分布する適潤性の褐色森林土である。開析の進行している大土山一帯には特に広く出現する。土層は深く、石礫を含み、腐植の下層への浸透も良好である。ところによっては、黒ボク土壌の崩落堆積により層位の転換が認められるが、色調がやや褐色を帯びているため、この統に一括した。斜面中腹ではヒノキ、谷部ではスギ、ヒノキの造林が可能である。

横山統 (Yok)

玄武岩を基岩とした山地に出現する褐色森林土である。この図幅では世羅西町の明神山に、ごく小面積分布するのみである。やや埴質で、角礫に富む。腐植の下層への浸透も良好である。ごく一部、黒ボク土壌の埋没層が認められるところもあるが、小面積であるため、この統に一括した。アカマツ林又はコナラを主とした広葉樹林となっているが、ヒノキの造林が可能である。

木ノ宗2統 (Kin-2)

古生層粘板岩、輝緑凝灰岩を基岩とし、木ノ宗1統と同一地域の谷間に、ごく小面積点在する適潤性の褐色森林土である。土層はかなり深く、団粒状構造をもつ厚いA層を有する。やや埴質で、角礫に富む。腐植の下層への浸透は良好である。スギ、ヒノキの造林に適する。

イ 褐色森林土壌 (黄褐色系)

石内2統 (Isi-2)

花崗岩を基岩とし、石内1統と同一地域の谷間にごく小面積点在する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。粒状～団粒状構造の発達したA層を有し、下層への腐植の浸透も良好である。石礫を含む。アカマツ林となっているが、その生長は良好で、ヒノキの造林も可能である。

原山2統 (Har-2)

流紋岩を基岩とし、原山1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。図幅南西部の高屋町

の一部に出現する。やや埴質で、石礫に富む。腐植の下層への浸透は良好である。アカマツ林となっており、その生長も比較的良好である。ヒノキの造林も可能である。

光明山3統 (Kmy - 3)

流紋岩を基岩とし、光明山1統と同一地域の谷部にごく小面積分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。図幅北部の甲田町、三和町の一部に出現する。やや埴質で、石礫に富む。腐植の下層への浸透は良好である。

ヒノキの造林が可能である。

撫臼山3統 (Nad - 3)

流紋岩を基岩とし、撫臼山1統と同一地域の谷間に分布する崩積性の褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。図幅北東部の吉舎町の一部に出現する。粒状～団粒状構造の発達したA層を伴い、腐植の下層への浸透は良好である。土性は壤土～埴壤土。石礫を含む。スギ、ヒノキの植栽されているところが多く見られたが、全般的には、ヒノキの適地である。光明山3統とよく似た性状を示す。

桧村3統 (Hin - 3)

安山岩を基岩とし、桧村1統と同一地域の谷間に点在する崩積性の褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。土層は深く、軟らかい。かなり粘質な土壌で、角礫に富む。A層は厚く、腐植に富む。下層への腐植の浸透は良好である。

スギ、ヒノキの造林に適する。

ウ 褐色森林土壌 (赤褐色)

世羅2統 (Ser - 2)

花崗岩を基岩とし、世羅1統と同一地域の谷間に、ごく小面積点在する褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。粒状～団粒状構造の発達したA層を有し、腐植の下層への浸透は良好である。土性はやや埴質。石礫を含む。ヒノキの造林に適する。

双三2統 (Fut - 2)

流紋岩を基岩とし、双三1統と同一地域の谷部に、ごく小面積点在する褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。崩積性の土壌であるため、土層は深く、軟らかい。石礫を含む。土色が全体的に暗色である。ヒノキの造林に適する。

小国 2 統 (Ogu - 2)

安山岩を基岩とし、小国 1 統と同一地域の谷部に、ごく小面積点在する褐色森林土で、土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。A 層は比較的厚く、粒状～団粒状構造が発達する。粘質で、角礫を含む。下層への腐植の浸透は良好である。ヒノキの造林に適する。

豊栄 2 統 (Toy - 2)

古生層粘板岩、輝緑凝灰岩を基岩とし、豊栄 1 統の谷間に、小面積点在する褐色森林土で、土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。粘質で、角礫に富む。ところによっては、黒ボク土壌の埋没層が認められることもあるが、面積が狭いので、この統に一括した。ヒノキの造林に適する。

(6) 赤色土

ア 赤色土壌

岡田山統 (Oka)

基岩にあまり関係なく、標高 300～600 m の開析の進行していない丘陵地や、山地の凸部に出現する赤色土で土色が 2.5 Y R を呈するものである。古い時代に生成されたものが、平坦な地形において、現在まで残存しているものと考えられる。ところによっては、上部にごく薄い黒ボク土層を認める場合があることから、被覆した黒ボク土層が、完全に流亡したため尾根などの凸地形に赤色土が単独に出現したのと考えられる。かなり粘質で、堅密である。アカマツ林となっているが、その生長は悪い。

(7) グライ土

ア グライ土壌

上井田統 (Kam)

地下水の影響によるグライ層や斑鉄が、層断面中に認められるもので、強粘質な母材や透水不良な堆積層がある緩斜地、ことに凹地形に出現する。この図幅では主に、大和町の一部に小面積点在する。下層に灰色のグライ層及び斑鉄があり、過湿の状態にある。湿性の草本植物が主に生育し、ほかに、わい性のアカマツ、ネズミサシ等が少数、生育する。林地としての利用は不可能である。

広島県立林業試験場 兵藤 博, 田辺 紘毅
三輪 明男

2 台地，低地地域の土壌

(1) 褐色森林土

この土壌群は暗褐色の表層をもち，その下に黄褐色の次表層がある。表層の土性は強粘質～壤質にわたり，ときに30～60cmに礫層をもつ。また，作土は腐植質火山灰層を含む場合もある。母材は広範にわたり，堆積様式は残積，洪積世堆積が多いが，一部に崩積もある。山麓傾斜地に分布するものが多い。

本図幅内には固結火成岩（流紋岩，花崗岩，安山岩類），固結堆積岩（粘板岩）に由来する細粒褐色森林土壌が分布するが，その分布状況は点的である。普通畑，樹園地，牧草畑として利用されている。

ア 細粒褐色森林土壌

(ア) 貝原統（**Kib**）

この土壌は山麓傾斜地，丘陵状傾斜地に分布する残積性土壌である。断面の主要土層の土色が黄褐色を呈し，土性は強粘質である。

また，次表層の土壌反応は弱酸性である。礫は少ないが，まれに下層に中角礫を含む場合がある。豊栄町別府，清武，大和町篠，世羅西町野々草などにみられる。代表地点は世羅西町中ヶ原にある。

(イ) 上 統（**Kmi**）

この土壌は次表層の土性が粘質であり，強粘質の貝原統とはこの点で異なり，区別される。この図幅内の分布はきわめて点的で，世羅西町下津田に，吉舎町徳市ほかに点在する。代表地点は吉舎町徳市にある。

イ 細粒褐色森林土壌造成相（**B-f(r)**）

この土壌は畑地造成地に限定される土壌であり，造成直後のため，土壌分化が認められない。土壌統としては細粒褐色森林土壌の貝原統，小坂統に類似する。土性は強粘質で，母材は固結堆積岩（粘板岩，砂岩）である。未風化細～中角礫に富む。世羅町江河内に代表地点がある。

ウ 中粗粒褐色森林土壌造成相（**B-mc(r)**）

この土壌は畑地造成地に限定される土壌であり，造成直後のため，土層の分化が弱い。土壌統としては中粗粒褐色森林土壌の裏谷統に類似する。土性は壤質で，母材は固結火成岩（花崗岩）である。世羅町京丸に代表地点がある。

(2) 灰色台地土

この土壌群は主として台地およびその傾斜地に分布し、全層又はほぼ全層が灰色或いは灰褐色を示す土層からなる。一般に斑紋の存在する土壌で、母材は広範にわたり、堆積様式は残積が主である。広島県に分布する本土壌群は固結火成岩（花崗岩）に由来する土壌が長年にわたる水田利用の結果、灌漑水の影響で灰色化の進行したものと、母材そのものが灰色を呈するものに区別される。

ア 細粒灰色台地土壌

(ア) 小向統（**Kmk**）

この土壌は全層又はほぼ全層が灰色、灰褐色を呈する強粘質土壌で作土の腐植含量2～5%、作土を除く全層に未風化細～中角礫を含む～富む。作土下の土層に糸根状、雲状斑を含むがマンガン結核をもたない。母材は固結火成岩（安山岩）、堆積様式は残積である。世羅西町山中福田周辺に点在し、代表地点がある。

(イ) 喜久田統（**Kik**）

この土壌は小向統に類似するが、土性が粘質（小向統は強粘質）であることで区別される。母材は固結堆積岩、固結火成岩、堆積様式は残積である。本図幅内における分布は狭少で点的である。河内町上戸野に代表地点がある。

(ウ) 早稲原統（**Wsh**）

この土壌は喜久田統に類似するが、マンガン結核をもつことで区別される。母材は固結堆積岩、固結火成岩、堆積様式は残積である。本図幅内の西南部に散在する。代表地点は河内町上戸野にある。

イ 中粗粒灰色台地土壌

(ア) 長笹統（**Ng**）

この土壌は主要土層の土性が壤質であることで喜久田統、早稲原統と区別される。このほか、他の土壌統と異なる点は母材が固結火成岩（花崗岩）にほぼ限定されることである。堆積様式は残積である。本図幅内の西南部、河内町宇山周辺に散在する。代表地点も宇山にある。

(3) グライ台地土

この土壌群は台地あるいは山地、丘陵地およびその傾斜面に分布し、全層またはほぼ全層がグライ層からなるか、下層がグライ層からなる土壌である。母材は一定せず、堆積様式も残積が多いか、洪積世堆積、崩積などがある。高い地下水位、湧水、宙水の存在などによる還元条件下で生成されたものが多い。

ア 細粒グライ台地土壌

(ア) 吉井統 (Yos)

この土壌は全層またはほぼ全層がグライ層からなる土壌で、主要土層の土性は強粘質である。母材は固結火成岩（安山岩）で、堆積様式は残積である。本図幅内の世羅西町小国周辺に点在する。

(イ) 橋本統 (Hs m)

この土壌は主要土層の土性が粘質で、強粘質の吉井統と、また、グライ層の位置が低いことでも区別される。母材は固結火成岩、固結堆積岩で、堆積様式は残積である。本図幅内のほぼ全域に分布する。地形は台地、丘陵地及びその傾斜面のほか、樹枝状谷間上部、側面に広く分布する。

(4) 赤色土

この土壌群は丘陵、台地に分布し、腐植含量低く、B層の土色が5YRまたはそれより赤い色相をもつ。土性はほとんどが強粘質で、礫も含む以下である。母材は固結火成岩、固結堆積岩、堆積様式は残積である。また、非固結堆積岩、洪積世堆積あるいは第三紀層に由来するものがある。本図幅にはこのうち、造成相のみ分布する。

ア 細粒赤色土壌造成相 (R - f(r))

この土壌は台地、丘陵地の造成土壌であって、土性は強粘質、礫は含まない。土層の分化はほとんど認められない。母材は固結堆積岩、堆積様式は残積である。世羅町江河内に代表地点がある。

(5) 黄色土

この土壌は台地、丘陵地に分布し、多くが腐植含量低く暗色を呈しない。B層の土色が5YRより黄色味が強いことによって赤色土と区別される。一般に堆積状態がち密で完全な成層状態を示さないものが多く、強酸性で塩基に乏しい。土地利用は畑、樹園地が多いが、水田としても利用されており、土性、礫層の有無、斑紋結核の有無などにより土壌統群、土壌統に細分される。

ア 細粒黄色土壌

(ア) 赤山統 (Ary)

この土壌は作土または作土を除くほぼ全層が黄色を呈する強粘質の土壌である。また、次表層の土壌反応が強酸性を呈する。土層の分化も弱く、物理性、化学性共に不良な土壌が多い。母材は主として固結火成岩（流紋岩）で、堆積様式は残積である。本図幅内の全域に点在するが、三和町上津田周辺に多い。

(イ) 鶴木山統 (Trg)

この土壌は主要土層の土性が粘質であり、強粘質の赤山統と区別される。本図幅内の分布面積は狭小で、吉舎町堂垣内に代表地点があるほか、数ヶ所に分布が認められる程度である。

(ウ) 矢田統 (Yad)

この土壌は赤山統に類似するが、母材が非固結堆積岩、堆積様式が洪積世堆積であることで区別される。本図幅内の世羅町青水周辺に分布がみられる。

イ 細粒黄色土壌造成相 (Y-f(r))

この土壌は台地、丘陵地の造成土壌であって、土性は強粘質、礫はほとんど含まない。土層の分化はほとんど認められない。母材は固結火成岩（流紋岩）、堆積様式は残積である。

土壌はち密で、強酸性のうえ塩基含量に乏しく、今後の土層改良、土壌改良を必要とする。本図幅内の世羅町京丸、下津田などの造成地に分布する。

ウ 細粒黄色土壌、斑紋あり

(ア) 蓼沼統 (Tdm)

この土壌は作土又は作土を除くほぼ全層が黄褐～黄色を呈し、作土及び作土下に斑紋をもつ土壌である。土壌はち密で物理性は不良である。主要土層の土性は強粘質である。母材は固結火成岩、堆積様式は残積が多いが、一部に非固結堆積岩、洪積世堆積もある。とくに、本地域においては一般的な土壌といえる。

(イ) 北多久統 (Kit)

この土壌は蓼沼統に類似する。作土下に斑紋のほか、マンガン結核を有することで蓼沼統と区別される。母材、堆積様式および分布状況も同様である。

(ウ) 江部乙統 (Ebe)

この土壌は蓼沼統に類似する。主要土層の土性が粘質であることで区別される。母材は固結火成岩、堆積様式は残積である。本図幅内における分布は点的である。

(エ) 新野統 (Art)

この土壌は北多久統に類似する。主要土層の土性が粘質で、強粘質の北多久統と区別される。母材は固結火成岩、堆積様式は残積である。本図幅内の分布は全域に分布する。

エ 中粗粒黄色土壌、斑紋あり

(ア) 都志見統 (Tsm)

この土壌は主要土層の土性が壤質であることで区別される。母材は固結火成岩（花崗岩）、堆積様式は残積である。作土および作土を除くほぼ全層が黄褐～黄色を呈するか、灰褐～灰色を呈する長笹統（灰色台地土）に類似する。本図幅内の分布は西南部に広く、代表地点は河内町宇山にある。

オ 礫質黄色土壌、斑紋あり

(ア) 氷見統 (Him)

この土壌は主要土壌ないし、礫層上部の土性が強粘～粘質で、土層30～60 cm以内より下部が礫層（未風化中角礫）となる。母材は固結火成岩で堆積様式は残積である。本図幅内の西南部に分布が広い。代表地点は福富町上戸野にある。

(6) 褐色低地土

この土壌群は沖積地に分布し、全層あるいはほぼ全層が黄褐色の土層からなる。沖積低地に分布する土壌のうち、排水良好な地域に分布する、酸化的土層を有する土壌である。母材は非固結堆積岩、堆積様式は水積である。

土地利用は畑地、水田にまたがるが、水田土壌では土層に斑紋結核を有する。

ア 細粒褐色低地土壌、斑紋あり

(ア) 屋形統 (Ygt)

この土壌は河川沖積地であって、主要土層の土色が黄褐色を呈し、土性が強粘質からなる。作土および作土下に斑紋をもつほか、マンガン結核を有する。母材は非固結堆積岩、堆積様式は水積である。本図

幅内の分布は局所的で、世羅町津口周辺にみられる。

(イ) 常万統 (Jom)

この土壌は屋形統に類似するが、主要土層の土性が粘質なこと、マンガン結核をもたないことで区別される。本図幅内の分布状況は狭小で、世羅町黒淵、世羅西町上津田にみられる。

(ウ) 江刺統 (Ess)

この土壌は常万統に類似する。作土下の土層に斑紋のほかマンガン結核をもつことで区別される。本図幅内の分布状況は狭小で点在的である。代表地点は世羅西町小国にある。

イ 中粗粒褐色低地土壌，斑紋あり

(ア) 荻野統 (Ogn)

この土壌は常万統に類似するが主要土層の土性が壤質であることで区別される。本図幅内の西南部、河内町上戸野周辺にみられる程度である。

(イ) 三河内統 (Mik)

この土壌は荻野統に類似するが、作土下の土層に斑紋のほかマンガン結核をもつことで区別される。本図幅内の分布状況は点在的である。代表地点は三和町敷名にある。

ウ 礫質褐色低地土壌，斑紋あり

(ア) 大沢統 (Osw)

この土壌は作土および作土下の土性が強粘～粘質で、土層 30～60 cm 以内より下部が礫層となる土壌である。本図幅内の分布状況は点在的である。代表地点は世羅西町黒川にある。

(7) 灰色低地土

この土壌群は沖積低地に分布し、全層及びほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壌であるが、一部には下層に腐植質火山灰、泥炭層、黒泥層などを埋設したものも含まれる。通常、斑紋、結核を有するが、褐色低地土と同様に、これらの存在しない場合もある。母材は非固結堆積岩、堆積様式は水積である。

ア 細粒灰色低地土壌—灰色系

(ア) 四倉統 (Ytk)

この土壌は全層またはほぼ全層が灰色を呈する土壌で、主要土層の土性は強粘質である。斑紋は存在するがマンガン結核をもたない。作

土下に未風化円礫を含む場合もあるが、礫層はもたない。本図幅内の東北部、世羅町津口、世羅西町小国周辺に分布がみられる。

(イ) 藤代統 (Fis)

この土壌は四倉統に類似するが、主要土層の土性が粘質なこととで区別される。斑紋は存在するがマンガン結核はもたない。本図幅内のほぼ全域に分布するが、その面積は狭小である。代表地点は三和町大谷にある。

(ウ) 鴨島統 (Kmj)

この土壌は藤代統に類似するが、藤代統と異なる点は構造をもつことである。本図幅内の東北部を除くほぼ全域に分布する一般的な土壌である。代表地点は三和町敷名にある。

(エ) 宝田統 (Tkr)

この土壌は藤代統、鴨島統に類似するが、マンガン結核をもつことで両統と区別される。生産力の高い土壌とされている。本図幅内のほぼ全域に分布するが、その分布面積は比較的広い。代表地点は世羅西町見田にある。

イ 細粒灰色低地土壌—灰褐色系

(ア) 緒方統 (Ogt)

この土壌は四倉統に類似するが、主要土層の土色が灰褐色を呈することで区別される。また、斑紋のほか、マンガン結核をもつ。構造をもった土壌である。本図幅内の分布状況は点在的で、代表地点は世羅西町高良平にある。

(イ) 金田統 (Kan)

この土壌は緒方統に類似するが、主要土層の土性が粘質なことと、また、マンガン結核をもたないことで区別される。本県においても分布面積は広く、本図幅においてもほぼ全域に分布する。代表地点は豊栄町乃美にある。

(ウ) 多多良統 (Ttr)

この土壌は金田統に類似するが、マンガン結核をもつことで区別される。金田統同様に県内分布面積は多い。本図幅内にもほぼ全域に出現する。代表地点は大和町福田にある。

ウ 中粗粒灰色低地土壌—灰色系

(ア) 加茂統 (K m)

この土壌は主要土層の土性が壤質を示し、斑紋をもつがマンガン結核をもたない。作土を除いて未風化細～小円礫を含む場合もあるが、一般に礫層をもたない土壌である。本県においては最も分布面積の多い土壌統であるが本図幅にはそれ程分布面積は多くない。代表地点は大和町椋梨にある。

(イ) 清武統 (K y t)

この土壌は加茂統に類似するが、マンガン結核をもつことで区別される。加茂統と同様に本県には広く分布する土壌統であり、本図幅にも全域に散在する。代表地点は大和町椋梨にある。

(ウ) 豊中統 (T o y)

この土壌は主要土層の土性が砂質であることで加茂統、清武統と区別される。本図幅内の分布は狭小で点的である。代表地点は吉舎町徳市にある。

エ 中粗粒灰色低地土壌—灰褐色系

(ア) 安来統 (Y s k)

この土壌は主要土層の土性が壤質で、土色が灰褐色を呈する沖積土壌である。本県には広く分布する代表的土壌の一つであるが、本図幅内には点的である。代表地点は福富町久芳にある。

オ 礫質灰色低地土壌—灰色系

(ア) 追子野木統 (O k k)

この土壌は土層 30～60 cm 以内より下部礫層となるもので、礫層及び礫層上部の土性が壤質である。本図幅内の分布は散的で、代表地点は世羅西町黒川にある。

カ 礫質灰色低地土壌—灰褐色系

(ア) 松本統 (M t m)

この土壌は追子野木統に類似するが主要土層の土色が灰褐を呈することで区別される。本図幅内の分布状況は点的で、代表地点は三和町流田にある。

(イ) 柏山統 (K a y)

この土壌は土層 0～30 cm 以内より下部が礫層となるもので、追子野木統、松本統より礫層の出現位置が高い。本図幅内には点的で、

代表地点は向原町坂にある。

キ 灰色低地土壌，下層黒ボク

(ア) 野市統 (Noi)

この土壌は灰色または灰褐色土層につづいて，ほぼ50cm以内に腐植質火山灰の埋没土層を有するもので，主要土層の土性は粘質である。礫層はもたない。作土および作土下に斑紋をもつ。本図幅内の分布は点的で，代表地点は三和町敷名にある。

(イ) 高崎統 (Tks)

この土壌は野市統に類似するが，土性が壤質であることで区別される。本図幅内の分布は点的で狭小である。代表地点は三和町半原にある。

ク 灰色低地土壌，下層有機質

(ア) 泉崎統 (Izm)

この土壌は灰色または灰褐色土層につづいて，土層ほぼ50cm以内に有機質の埋没土層を有するもので，主要土層の土性は強粘質である。本土壌統は全県的にみても狭小で，本図幅内でも同様である。代表地点は大和町福田にある。

(8) グライ土

この土壌群は沖積低地に分布し，㊦全層もしくはほぼ全層がグライ層からなるか，㊧次表層がグライ層からなり，泥炭，黒泥または腐植質火山灰などの埋没土層をもつか，㊨次表層は灰色の土層からなり，下層はグライ層からなる土壌などをいう。母材は㊦および㊧が非固結堆積岩，㊧の表層は非固結堆積岩，下層は植物遺体または腐植質火山灰である。堆積様式は水積（㊧の一部は集積）である。

ア 細粒強グライ土壌

(ア) 田川統 (Tgw)

この土壌は全層または作土を除くほぼ全層がグライ層からなる強グライ土壌である。主要土層の土性は強粘質で作土および30cm以下にも斑紋をもつ。礫はほとんどない。本図幅内には樹枝状谷間が多く，これらには，本土壌統の分布が多い。本図幅内の西南部を除く全域に分布する。

(イ) 西山統 (Nsh)

この土壌は田川統に類似するが，主要土層の土性が粘質なこと，土

層30cm以下には斑紋をもたないことで区別される。本図幅内には田川統ほど広くはないがほぼ全域に分布する。代表地点は世羅西町山中福田にある。

(ウ) 東浦統 (Hgs)

この土壌は西山統に類似するが、土層30cm以下にも斑紋をもつことで区別される。本図幅内のほぼ全域に分布する。代表地点は豊栄町篠江谷にある。

イ 中粗粒強グライ土壌

(ア) 芝井統 (Shb)

この土壌は主要土層の土性が壤質であることを除けば西山統に類似する。しかし、本図幅内における分布は狭小で点在的である。代表地点は福富町戸野にある。

ウ 細粒グライ土壌

(ア) 保倉統 (Hkr)

この土壌は土層のほぼ50cm内外より下部がグライ層であり、強グライ土壌の田川統とはこの点で区別される。土層内に斑紋はあるが、構造の発達がみられない。本図幅内の分布は狭小で点在的である。代表地点は大和町福田にある。

(イ) 幡野統 (Htn)

この土壌は保倉統に類似するが、保倉統には構造の発達がみられないのに対して、本土壌統には柱状構造が認められることで区別される。保倉統と同様に本図幅内の分布は点在的である。代表地点は大和町福田にある。

(ウ) 千年統 (Cht)

この土壌は主要土層の土性が粘質な点を除けば保倉統に類似する。本図幅内の分布状況は点在的である。代表地点は三和町上壱にある。

(エ) 三隅下統 (Mis)

この土壌は千年統に類似するが、千年統がマンガン結核をもたないこと、構造をもたないことに対して、本土壌統はマンガン結核、構造をもつことで区別される。本図幅内の分布状況は点在的である。代表地点は大和町蔵宗にある。

エ 中粗粒グライ土壌

(ア) 新山統 (Niy)

この土壌は主要土層の土性が壤質である。本図幅の南部に点在する。
代表地点は大和町国兼にある。

オ グライ土壌，下層黒ボク

(ア) 高畑統 (Tkh)

この土壌は全層またはほぼ全層の土性が粘質で，土層の30～50 cmの部位に腐植質火山灰に由来する埋没土層をもつ土壌である。しかも土層50 cm内外より下部はグライ層となる。本図幅内の分布状況は点的である。代表地点は世羅西町中村上にある。

カ グライ土壌，下層有機質

(ア) 楢山統 (Nym)

この土壌は高畑統に類似するが，埋没土層の母材が植物遺体であることが異なる点である。この植物遺体は泥炭である。本県内における分布も点的で狭小である。また，本図幅内における分布状況も同様である。代表地点は三和町上板木にある。

(9) 泥炭土

この土壌群は全層または次表層に泥炭層をもつもので母材は植物遺体，堆積様式は集積である。過湿地に繁茂した植物の遺体が水面下で沈積し，不完全な分解を経て泥炭化したものである。本土壌群には土壌統群をもたない。

(ア) 長富統 (Nag)

この土壌は全層またはほぼ全層が泥炭層からなる。本県における分布状況も狭小である。本図幅も同様に豊栄町大草田にのみ認められる。

各土壌統の代表地点及び代表断面柱状図は「土じょう図」に記載している。

広島県立農業試験場 上 本 哲
植 木 博 秀

Ⅳ 水系及び谷密度図

本図に含まれる地域の水系の特色をみると、まず、主要な水系が一定の方向性をもってのびていることがわかる。すなわち、美波羅川が図の東部中ほどからおもに流紋岩よりなる地域を北西に直線的に流れ、図の西部中ほどから椋梨川がおもに花崗岩よりなる地域を南東に直線的に流れている。両主要河川の間地域では、両河川の支流が北東から南西に、または南西から北東に直線的のびている。これら支流の方向性は西部でより明瞭で、大土川、飯田川がその例である。これに対し、東部では南北及び東西の方向性が加わり複雑になっている。特に南東部の大和町付近では南北及び東西の方向性が明瞭である。なお、美波羅川より北側の水系は北東—南西の方向性が明瞭であるが、椋梨川より南側ではその方向性は不明瞭で、むしろ東西の方向性が明瞭である。以上のような水系の方向性はこの地域の構造線の影響を強く受けているものと考えられる。

次に、水系のより細かいパターンをみると、ほぼ樹枝状をなしていることがわかる。さらにもう少し細かくみると、北西部の700 m前後で流紋岩よりなる大土山付近の山地と、南部の500 m前後の花崗岩山地の地域では、各支流の合流点と合流点との間隔がその他の地域と比較して長く、この両地域と他の地域とでは水系の発達過程に何らかの相違があると考えられる。

水系図より作成した谷密度図をみると、南部の花崗岩地域では谷密度45以上の所が多いのに対し、他の地域は35～45の所が多い。このことは、北から南への20の網目列の各々について、どれくらいの谷密度の所が含まれているかを示した図-3をみてもわかる。一方、東から西への網目列について同様にした図-4からは、東部に特定の谷密度の所が多く出現し、東部と西部とでは谷の発達度に相違があることがわかる。図-5は発現する谷密度のすべてについて、その頻度を段階別にまとめたものであり、本地域では40～45の所が最も多いことがわかる。

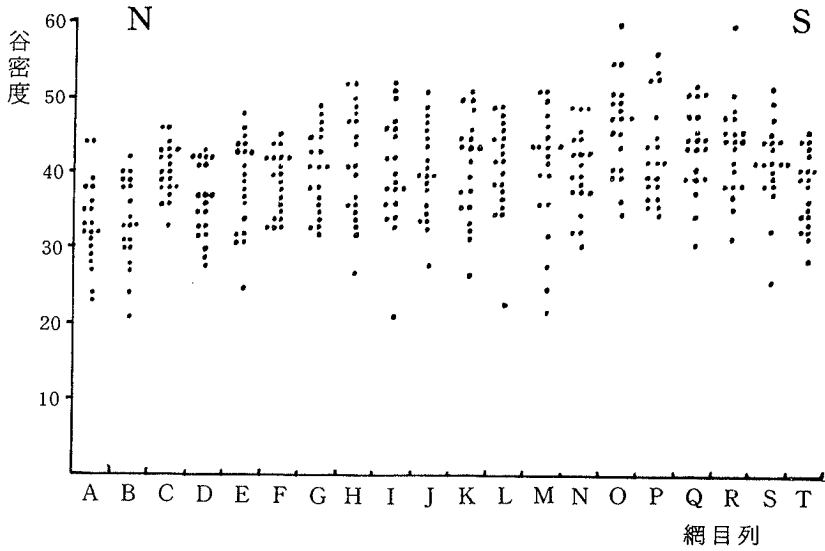


図-3 谷密度の南北方向での分布

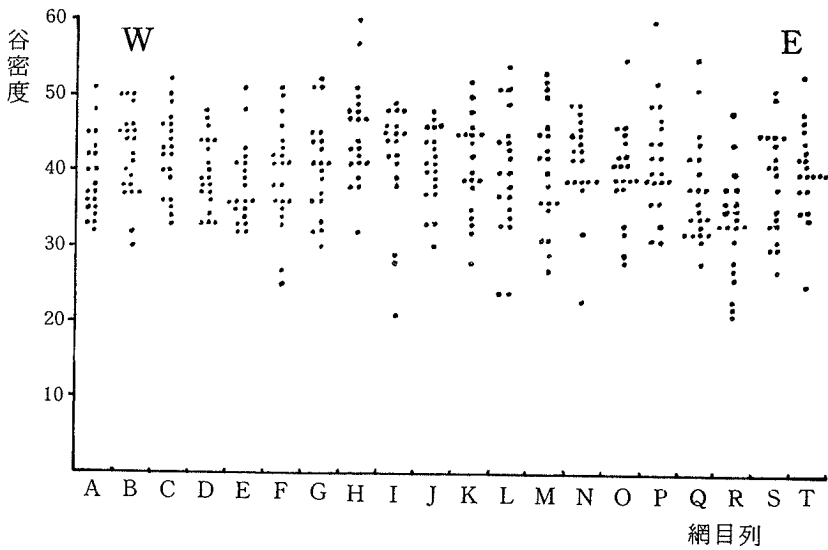


図-4 谷密度の東西方向での分布

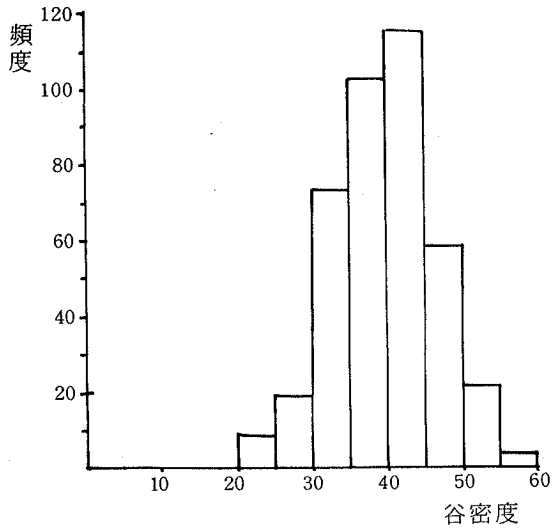


図-5 谷密度の段階別頻度

広島大学文学部	藤原健蔵
ノートルダム清心高校	多賀俊介
広島大学総合科学部	堀信行

V 傾斜区分図

本図幅はほぼ全域が山地であり、地形分類図によると、小起伏山地と中起伏山地に分類されている。40度以上の斜面はほとんどなく、30～40度の斜面も中起伏山地の一部に限られ、大半の地域は20～30度、あるいは15～20度の斜面で占められている。ここでは傾斜区分の各単元の本図幅内での分布の傾向と、各単元の形状とその大きさについて簡単に述べる。表-14は作製した傾斜区分図に10×10のメッシュをかけ、各メッシュ内で最大の面積を占める単元を書き出したものである。この表から全体の傾向をみると、図幅の西南部に単元3（20～30度）のやや急傾斜の部分が集中し、東端寄りの地域には単元5（8～15度）のやや緩傾斜の部分がみられ、他の地域の大半は、単元4（15～20度）である。地形分類図との関連について述べると、中起伏山地は、単元3（20～30度）の傾斜を持つ斜面が主体であり、小起伏山地は、単元4（15～20度）あるいは、単元5（8～15度）が主体である。

傾斜区分図の単元ごとの形状は、地質構造や谷による開析の程度により影響を与えられている。本図幅内には、北北東-南南西の方向と、これと共役な西北西-東南東の方向の構造線がみとめられ、これらの方向に沿って、細長く延びた地形の配列がみられる。谷による開析が進むほど各単元の形状は小さくなる。本図幅の北東端では、開析の進行はおそく、各単元の形状は比較的大きい。開析が進み、丘陵に近くなると、各単元の形状は非常に細くなるのだが、地形図の上で、これらを判別することは困難である。形状が細かくなったいくつかの単元が統合されて結果的には大きなものとなる。東半分の地域にこのような傾向がみられる。両者の中間のいわゆる壮年期の斜面では、単元の形状の大きさは最も小さいものとなる。本図幅では中央部から南寄りの地域に分布する。

表-14 本図幅内での傾斜区分単元の分布

4	4	4	6	5	4	7	5	3	3
3	4	3	4	7	5	4	4	4	3
4	4	4	4	3	4	4	4	4	5
3	4	4	3	4	4	4	5	5	5
2	4	4	4	3	5	4	5	6	5
3	4	3	3	3	4	4	4	5	7
3	3	6	5	3	3	4	7	7	4
4	4	3	3	3	4	4	5	7	4
5	4	4	3	4	3	4	3	5	5
3	3	3	3	3	4	3	5	5	5

(注) 1 : 40度以上, 2 : 30-40度,
 3 : 20-30度, 4 : 15-20度,
 5 : 8-15度, 6 : 3-8度,
 7 : 0-3度

広島大学文学部 藤原健蔵
 “ 総合科学部 堀 信行
 “ 文学部 秋山吉則

Ⅵ 土地 利用 現 況 図

1 農 地

この図幅内に含まれる農地は、ほとんど県の主要農業地域に属し水稻の生産が主である。水田は、主要な7河川の流域とその支流の低地地域に分布しているものと、これらに連なった樹枝状谷間に細長く分布しているものがある。後者は地下水位が高く、湿田となっている場合が多い。その他台地及びその傾斜面に張りついた狭小な棚田として分布しているものも多い。低地地域の水田は、美波羅川上流、黒淵川、飯田川、椋梨川、沼田川上流、徳良川および芦田川上流の流域に発達しているが、いずれも流域幅は小さく、沖積作用は貧弱で広い農地を形成していない。

畑地は、樹園地を含めて従来から既成畑としてまとまったものは少なく、茶園、梨園、栗園、花木園、草地などが山麓斜面、台地に分布しているが、一部を除いて小規模なものが多い。野菜類の栽培は、河内町の白菜を除いては、家庭菜園程度で、まとまった面積はみられない。近年、梨園、牧場等農業開発モデルの出現をきっかけに、起伏が少なく自然条件に恵まれた山地の開発が進み、最近では国営広島中部台地農地開発事業が世羅西町、世羅町、大和町、甲山町、久井町の5町にまたがって計画されている。それは、開発可能地704 haを対象に610 haの農地(24団地)を造成して畑地かんがい施設も整備しようというものである。事業は昭和53年度から着工され、54年度からは一部にタバコ、飼料作物、茶などが作付けされている。

この図幅に含まれる地域の農家の第2種兼業率は65%以上であり、土地条件が劣悪なことも手伝って水田の高度利用率は極めて低い。近年、水田利用再編対策事業に伴って、水田転作が行われており、年々その面積も増加している。主な転作作目は、飼料作物、大豆、野菜、麦類等である。

この図幅に含まれる11の町の耕地率は、県平均に比べてやや高く(12.7%)、畑地率(畑/農地)は本県の29%に比べて11%と低く、水田の割合が高い。しかし、今後は農地開発事業による大規模農地の造成によって、畑地率も増加するであろうし、県内の畑作モデル地域として今後にかけられる期待は大きい。

広島県立農業試験場 植木博秀
上本哲

2 林 地

この図幅の森林はアカマツ林を主とするため一つの地域ともみなされるが、細かく見ると四つの地域に区分される。

図幅中央の大部分は、350～550 mのなだらかな山地で、吉備高原面を構成し、沼田川、芦田川と江ノ川の源流地域にあたる。地形的に未解析面が広く、赤色・赤褐色系の森林土壌が残存するため、地質による土地生産力の差があまり現れず、森林はそのほとんどが、天然生アカマツの二次林で占められている。

また、年平均気温 12～14℃、平均降水量 1,400～1,800 mmとやや乾性の内陸の気候のため、アカマツ林は一般に生育が不良で良材にとぼしく、昔は、薪や坑木の生産が行われていた。しかしこれら自然的条件はマツタケの発生には最適な環境で、広島県下では代表的な生産地であった。現在ではその生産量はかつての10分の1に減少しているが、森林の取り扱いを昔に近づけ、マツタケの発生をうながすためにいろいろと施策が講じられている。

図幅北西部のカンノキ山（892 m）、大土山（800 m）の地域は、高田流紋岩の山塊で、長大な中腹の平衡斜面が発達している。尾根にはアカマツ林山麓には広葉樹林が分布しているが、中腹に官行造林による比較的大きなヒノキ人工林が見られる。しかしその他のヒノキ・スギの人工林は谷間に点在するにすぎない。

図幅南西部の戸野、宇山には、沼田川の遷急点に当たる谷の切れ込みがある。森林は、吉備高原のつながりでアカマツ林が多いが、山腹の急しゅんな場所には広葉樹林の分布が見られる。

図幅北東部の戸張・徳市にも吉備高原面を侵食した急傾斜地が見られ、中腹より上部にはアカマツ林が分布し、中腹下部には、広葉樹林とヒノキ・スギ人工林が点在する。

以上のように、この図幅にはアカマツ林が多いので、健全なアカマツ林の育成に努めるとともに、マツタケの生産向上を図らなくてはならないが、土地生産力が低いので、林業的な木材の生産機能にはあまり期待できない。しかし、古生層の谷間や、急傾斜地の麓部には、造林適地があるので、経済性の高いヒノキ・スギを導入して木材の生産機能を高める必要がある。

また、森林の有する公益的機能に対しては、社会的要請が強く、本図幅内においては大土山、明神山などで、保健休養機能などの拡大に対する開発が期待されている。

さらに、椋梨ダム、三川ダムの築設等にも見られるように、瀬戸内の沿岸都市の貯水池として、これらのダムが有効に機能するよう、この地域の森林に対しては水源かん養機能の増進を図ることも期待されている。

その他、土地利用区分については、吉備高原面は起伏量が少ないので、林地をより生産性の高い農地(畑地・果樹園・牧草地)に造成するために大規模な開発が進められ、相当な面積が転用に及んでいる。

しかしこれらの転用に際しては、地域における森林の有する公益的機能の減少に対し、将来の水利用を始めとし環境の保全、国土防災などについて十分な配慮をもって当たることが望まれる。

参考資料 表-15 町別森林構成比 (単位：%)

町名 区分		甲	向	福	豊	大	河	世	世	三
		田	原	富	栄	和	内	羅	羅	和
		町	町	町	町	町	町	町	西	町
		町	町	町	町	町	町	町	町	町
人工林		11	17	12	5	6	10	8	7	5
天然林	針葉樹	64	51	74	90	92	55	78	87	86
	広葉樹	24	30	12	3	1	32	10	3	8
その他		1	2	2	2	1	3	4	3	1

広島県林務部林政課 戸田春光

” 上田猛雄

1980年 3 月 印刷発行

都道府県土地分類基本調査

乃 美

編集発行 広島県企画部企画課
広島市基町10-52
TEL(0822)28-2111

印刷 株式会社 三 共
広島市東白島町8-23
TEL(0822)28-7163